



特定行為研修を修了した看護師を中心とする PICCチームによるタスク・シフト ～安心・安全でタイムリーな留置を目指した業務改善の取り組み～

医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院

千葉県鴨川市
917床／職員数 2617 名（うち看護職員数950名）



課題・背景

① 中心静脈カテーテル留置・長期の末梢静脈カテーテル留置の実態はあるが、PICC*への移行が進んでいなかった

○病棟でのPICC挿入の介助による看護師の業務負担の増加

*PICC | Peripherally Inserted Central Venous Catheter（末梢挿入型中心静脈カテーテル）の略語。腕から挿入する中心静脈カテーテルで、他の中心静脈カテーテルと比較して、比較的簡単に挿入でき、挿入後の感染などのリスクも少ないのが特徴とされる

② 特定行為研修を修了した看護師の誕生（2020年）

目的・目標

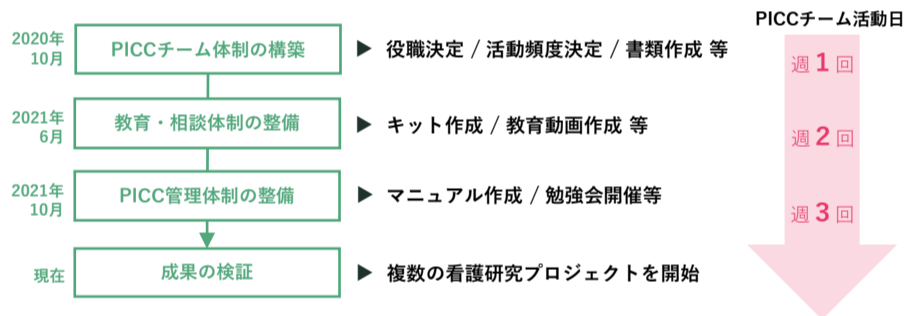
① 安心・安全で質の高い看護を効果的・効率的に提供する

② 看護師の業務負担の軽減

▶ 特定行為研修修了者らによるPICCチームの発足

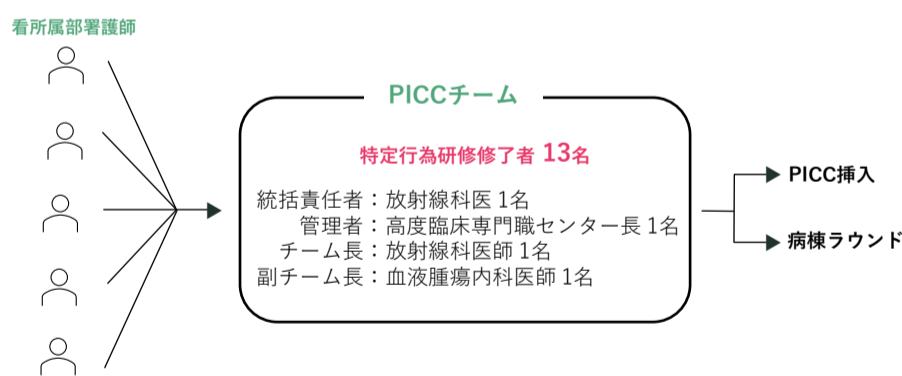
取り組み内容

取り組みの流れ



PICCチームの活動体制

- ・看護師は、1人が月3日程度PICCチーム活動に従事
- ・看護師は病棟または部署横断的に看護ケアを行う専門部署(高度臨床専門職センター)に所属



① PICCチームによる実践

○特定行為研修修了者によるPICC挿入

- ・週3回（月・水・金）の活動日
- ・手順書で患者の病状の範囲を確認
- ・PICCチーム長の医師との連絡体制の確保
- ・挿入者 / 介助者 / 外回りを2～3人の特定行為研修修了者が分担する
- ・挿入場所は画像TV室/内視鏡室/病棟などから状況を確認の上判断

○病棟ラウンド・アフターケア

- ・挿入部位、固定、閉塞の確認
- ・違和感や苦痛の確認
- ・病棟の看護師からの相談に対応



▲PICC挿入の様子



▲挿入患者への病棟ラウンドの様子

② PICC管理の統一

○業務フローの効率化と患者ケア改善

	依頼	調整	挿入・介助	管理
取り組み以前	担当医 他科依頼入力 電話連絡 当日依頼	放射線科医師 診療の合間で日程、 介助者、部屋の調整 画像センターの看護師 当日準備	放射線科医師が挿入 画像センターの看護師 介助、記録、コスト 医師が病棟で挿入 病棟看護師が介助	病棟の看護師
取り組み以後	担当医 PICC依頼入力	PICCチーム 日程調整、準備	PICCチーム 特定行為研修修了者 挿入、介助	病棟の看護師 PICCチーム 病棟ラウンド
効率化	依頼テンプレートの作成 当日・事前予約可	依頼一覧の自動化 事前に日程調整	手順書に従いPICCチーム による 挿入 / 介助 / 記録 医師の連絡体制	コンサルテーション アフターケア 教育

成果・効果

① 特定行為研修修了者によるPICC実践

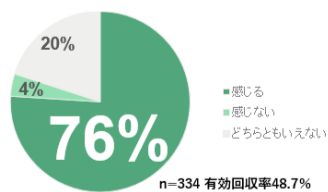
PICC導入実績が 導入前 平均 56件/年間 ▶ 導入後 589件/年間 (2021年)

② 業務量の削減

年間 883.5時間 のPICC挿入介助時間を削減
▶ 看護師の身体的負担の軽減

▼病棟の看護師へのアンケート

Q.特定行為研修修了者がPICCを挿入することで自身の看護業務量が減ると感じるか



③ 費用の削減

医師の人件費を年間3,491,554.5円削減

年間で挿入に費やす時間835.5時間と医師の時給4,179円で試算
(厚生労働省「令和3年賃金構造基本統計調査による職種別平均賃金(時給換算)」参照)

④ インシデント件数の減少

PICCチームによるPICC穿刺にかかるインシデント件数

2019年度：1件 2020年度：0件 2021年度：0件

医師によるCV穿刺にかかるインシデント件数

2019年度：4件 2020年度：1件 2021年度：0件

⑤ 患者・利用者の苦痛を軽減

PICCへ移行し、長期留置が可能になったことで穿刺回数削減/適切なカテーテル選択ができるようになり、患者の満足度が向上した

⑥ 安心・安全・タイムリーなPICC挿入の実現

PICCチームへの依頼フロー整備により末梢静脈ライン確保困難事例や自科医師での対応困難な事例でもスムーズな治療開始/タイムリーな穿刺を実現し、医療安全性が向上した

⑦ チーム連携の向上

困難事例などの情報共有やフィードバックにより、トラブルシューティング、スキルが向上したグループウェアシステムの活用や多職種協働により、チーム連携が向上した